

もしも帝王切開後経膈分娩を選んだ場合、私の分娩はどのようなのでしょうか？

以前の傷口が分娩中に開くという小さなリスクがあるため、帝王切開後経膈分娩で出産する女性が分娩に入ると(通常、陣痛が5分間隔となり、子宮頸部が4cmほど開いた時) 厳密に監視されます。

陣痛発作中に病院に到着すると、おそらく手の甲に点滴されるでしょう。分娩中を通して、赤ちゃんの心拍が電子的に監視されることが望めます。

助産師および医師は、腹部触診(収縮の度合いを評価し、赤ちゃんの位置を監視するため)および膈の診断(頸部の開口度を評価するため)によって定期的に分娩の経過を評価します。分娩の進行が遅い場合、陣痛促進剤(ホルモンの点滴)を使用することが可能です。以前の帝王切開による瘢痕があるため、注意深く行われます。

分娩が順調に進まないとか、赤ちゃんに疲労の兆候が見えた場合、緊急帝王切開術で出産するようにと助言されるでしょう。



帝王切開後経膈分娩に成功する可能性はどのくらいあるのでしょうか？

複数の要素が、帝王切開後経膈分娩が成功する可能性に影響を及ぼします。あなたのオプションについて医師および/または助産師と相談される際には、以前に帝王切開をした理由が考慮されます。しかし国内および海外の研究結果によると、帝王切開後経膈分娩を試みた女性の大半(63-94%)が成功しています。

帝王切開後経膈分娩は、以下のような状況においては高い成功率を示しています。

- 以前に経膈分娩で出産したことがある場合。
- 今回の妊娠は問題がなく順調であった場合。
- 今回の妊娠で、自然に陣痛、分娩に入った場合。
- 体格指数が30未満の場合。
- 骨盤位、前置胎盤、胎児仮死などの理由で、以前に帝王切開をした場合。

よくある質問

Q. 以前に帝王切開をしても、誘発分娩は可能ですか？

陣痛が誘発されると、傷口が開くリスクは高まります。ですから誘発分娩は、個々に応じて、産科医の推薦とサポートを得た時にのみ検討されるべきです。

Q. 分娩中、硬膜外麻酔をかけてもらうことはできますか？

直立姿勢と分娩中に動き回ると利点がある一方、硬膜外麻酔は禁忌ではありません。

さらなる情報については、助産師または産科医にご相談ください。

本情報パンフレットは、NSW州キッズ・アンド・ファミリーズ専門諮問グループ (Expert Advisory Group of NSW Kids and Families) により作成されたものです。



帝王切開後の 次の出産

出産オプションに関する情報



NSW
GOVERNMENT

Health

帝王切開後の次の出産 オプション

すでに1回あるいは2回以上帝王切開を経験された方は、次の出産方法について考えている場合もあるでしょう。帝王切開をした女性の内の大多数は、帝王切開後経膈分娩で出産することが可能です。将来の妊娠時に経膈分娩または帝王切開のどちらを選択するかについて、何れのオプションにも異なる利点とリスクがありますが、両方とも安全です。全般的に殆どの女性にとって両方とも非常にリスクが低く安全な選択肢と言えます。

本情報パンフレットは、次の出産方法についてあなたが意思決定しやすいように、最新の研究と証拠に基づいて一貫した情報を提供する目的で作成されたものです。情報は、あなたが助産師および医師と相談される時に役に立ちます。

経膈分娩を推奨できない場合

以下の場合には、経膈分娩は推奨できません。

- 過去に次のような複雑な帝王切開を経験された場合。
- 伝統的な帝王切開（子宮上部まで切る帝王切開）。
- 過去に子宮筋層の切開。
- 過去に子宮破裂（以前の帝王切開部の瘢痕にそって子宮が破れる）の経験。
- 帝王切開を3回以上経験。
- ある種類の子宮の手術。しかし医師との相談により経膈分娩が可能な場合もあります。
- 妊娠と妊娠の間の期間が短い場合（18ヶ月未満）。

帝王切開後経膈分娩

以前に子宮下部の帝王切開をした殆どの女性は、次の妊娠では安全に経膈分娩で出産することが可能です。これは帝王切開後経膈分娩と呼ばれます。

赤ちゃんへ重大な危害を与えるリスクは、初めての赤ちゃんの時と同じで、非常に低いです（帝王切開後経膈分娩を試みる1000人の女性の内、約2人の割合）。

帝王切開後経膈分娩に成功した場合の利点:

- その後の妊娠において、出産が複雑ではなくなる可能性が高くなります。
- 回復時間と入院期間の短縮。
- 血栓のリスク（深部静脈血栓症）が低減されます。
- 母子の絆が深まり、赤ちゃんの長期的な福祉の向上につながります。

帝王切開後経膈分娩の欠点:

- 分娩が長引いたり、赤ちゃんが疲労してきた場合、緊急帝王切開術が必要となります。
- 緊急帝王切開術が必要となった場合、出生後の輸血の必要性が僅かに高まります。
- 以前の傷跡部分が弱くなったり、裂けたりします（破裂と呼ばれる）。稀ではありますが、瘢痕が破裂すると、あなたと赤ちゃんに重大な影響を及ぼす場合もあります。瘢痕破裂の可能性は低いです（帝王切開後経膈分娩を試みる200人の女性に約1人の割合）。



再び帝王切開を選択

自然分娩ではなく、再び帝王切開を選んでも、その他の問題はなく、妊娠39週間目以降に手配されます。

次の赤ちゃんにも帝王切開を選んだ場合の利点:

- 以前の瘢痕が破裂するリスクは実際上ありません。
- 出生後、輸血の必要性は僅かに減少します。

次の赤ちゃんにも帝王切開を選んだ場合の欠点:

- 以前の帝王切開時の瘢痕組織により、手術がより長時間で複雑になります。
- 出生後の感染リスクが高くなります。
- 回復時間と入院期間が長くなります。
- 血栓症（深部静脈血栓症）になる可能性が高くなります。
- 選択的帝王切開術で生まれた赤ちゃんに呼吸障害がより多く見られます。
- 今後の妊娠の際に、例えば前置胎盤（胎盤が子宮頸部に接近していたり子宮頸部を塞いでいる）等、問題が発生するリスクが高くなります。

